

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史科／世界史B】

1. 対象

学習に対して非常に前向きで、世界遺産などの教養的な知識も積極的に吸収しようとする姿勢がある。話し合って考えを深めることが得意な集団である。

2. 単元名「北方民族の活動と中国の分裂」（全4時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	中国の分裂と周辺諸国の動向などをもとに、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。
思考力、判断力、表現力等	中国の分裂期と遊牧国家をはじめとした東アジア世界の変化を関連付け、それぞれの社会や文化の特色を、多面的・多角的に考察し表現する。
学びに向かう力、人間性等	他者との積極的な関わりを通じて、自らの意見をより深化させようとする。

4. 本時の目標

魏晋南北朝時代の社会状況を踏まえ、その文化的特徴を記述できる。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。



解決したい課題や問い
魏晋南北朝時代の特徴を踏まえて、作品を分類しよう！

考えるための材料			
魏晋南北朝の社会と文化	遊牧民による文化 (五胡十六国：北朝) ・ 質実剛健な文化 ・ 石窟寺院 ・ 鎮護国家思想	漢化政策 ・ 袖・靴・帯の変化	貴族による文化 (六朝文化：南朝) ・ 流麗華美な文化 ・ 四六駢儷体 ・ 儒教思想
想定される活動			
・ 華北への遊牧民の侵入から、北朝では多様な文化の融合があったと考える。 ・ 貴族中心の社会から、文化の中心も貴族が担っていたと考える。	・ 仏教の要素からグループ化する。 ・ 鎮護国家思想が戦乱の世に生まれたことを理解する。	・ 遊牧民的文化の開花が見られないことから、漢化傾向にあったことを理解する。	・ 四六駢儷体等が貴族に好まれた文化であると理解する。 ・ 詩や散文が好まれた点が、漢人による言語活動だと推測できる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
振り返り（3分）→社会的特徴の記述（3分）→グループで共有・まとめ（3分） →文化の分類（6分）→グループで共有・まとめ（15分）→全体で共有（10分）→まとめ（10分）

想定される問題解決のプロセス

以下に示したように資料の読み取りができており、それを社会の特徴と結び付けて文章で表現することができている。

①「帰去来辞」について

- ・「田園」というキーワードを見つけることができている。
- ・詩の全体像から、自由な趣が読み取れている。

☆江南の地理的な要素まで考慮できたらすごい！

②「三大石窟寺院」について

- ・「仏教＝中国にとって外来の宗教」だと理解できている。
- ・漢王朝までの時代では、仏教が栄えていないことを理解できている。
- ・敦煌莫高窟の仏像が西方の影響を受けていることが読み取れている。

☆「ガンダーラ様式」「グプタ様式」とのつながりまで見つけられたらすごい！

③『文選』について

- ・古典や四六駢儷体とは、高度な知識が必要だと考えられている。

☆「訓詁学」というキーワードが出せたらすごい！

④「女史箴図」について

- ・鏡や化粧品が描かれていることを見つけれられている。

想定される生徒の発言

①「帰去来辞」について

- ・「田園」という内容から、江南地方の開発を特徴とする南朝の詩ではないか。
- ・詩を読むというのは、優雅な貴族的な文化と言えるから、南朝でつくられたのではないか。
- ・「故郷の田園が荒れ果てる」ということは戦乱が多かったと理解できるので、北朝でつくられたのではないか。

②「三大石窟寺院」について

- ・漢民族の王朝である漢王朝では儒教（儒学）が重視されていたから、新たな宗教が流行るとすると、異民族の王朝が乱立した北朝ではないだろうか。
- ・日本でも戦乱や飢饉への対応のために奈良の大仏がつくられたから、中国でも、戦乱の多かった北朝でつくられたのではないか。
- ・仏像をつくるような高い技術は遊牧民にはなかったはずだから、南朝ではないか。

③『文選』について

- ・「四六駢儷体」という高度な技法が用いられていることから、漢語がわからない遊牧民国家では難しいはずだから、南朝だろう。
- ・古典の能力が必要ということは、漢民族の文化と言えるため、南朝の文化だろう。
- ・遊牧民が漢民族の文化を吸収する漢化のために編纂したと考えられるため、北朝の文化だろう。

④「女史箴図」について

- ・見た目を気にしているという貴族的な要素が伺えるので、南朝でつくられたものだろう。
- ・鏡や化粧品があるから、貴族的な南朝の様子を描いたものだろう。
- ・文字が書けない、読めない人にも分かるよう、北朝で描かれたものではないか。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

社会的特徴が文化的特徴に現れることを理解することができ、北朝の文化的特徴および南朝の文化的特徴を文章で述べるができる。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識及び技能	北朝・南朝それぞれの成立と発展の過程を理解する。
②思考力、判断力、表現力等	文化資料の特徴を言葉で表現し、社会状況を踏まえて分析し、グループピングする。
③学びに向かう力、人間性等	・資料から文化的特徴に気づこうとする。 ・グループでの活動に協働的に取り組もうとする。